# 看護学科 2年後期 専門基礎科目／専門科目

1. 東洋医学概論
2. リハビリテーション論
3. 看護倫理
4. 看護管理論
5. 地域・在宅看護技術論
6. 地域・在宅看護過程
7. 精神看護学援助論Ⅱ
8. 成人看護学援助論Ⅱ
9. 成人看護学援助論Ⅳ
10. 小児看護学援助論Ⅱ
11. 母性看護学援助論Ⅱ
12. 成人看護学実習Ⅰ
13. 成人看護学実習Ⅱ
14. 高齢者看護学実習Ⅰ
15. 高齢者看護学実習Ⅱ
16. 小児看護学実習
17. 母性看護学実習
18. 精神看護学実習
19. 地域・在宅看護学実習
20. 看護研究Ⅱ

看護学科

| 科目名: 東洋医学概論 | | | | | 担当教員 氏名: 平名浩史、四日 順子、室谷 良子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 日本における現代の医療では慢性疾患を含めた様々な症状への対応が求められており，伝統医学の役割が再認識されている。東洋の伝統医学と近代西洋医学では病態認識や治療概念が大きく異なっており，今後は伝統医学と近代医学との調和をいかに推進するかが重要な課題となる。そこで，本講義では東洋医学における概念や診断，治療に用いられる漢方薬の副作用を理解することを目標とする。<br>【四日】看護の中心概念と東洋医学の心身一如の概念は類似している。本講義では、心と身体を統合的に捉える全体性を理解し、ひとが本来持つ治癒力を促進するケアについて理解する。<br>【室谷】<br>古くから家庭で伝えられてきた、血の道療法の手わざ法の一部を取り入れ、いつでも、どこでも、誰でも、簡単に、短時間で実行でき、ケアする人もされる人も負担の少ない疲れない方法を提案します。この方法は、身体を温めることで、活動しやすくなり、活動することで自然治癒力を蘇らせ、心身の活性化を図ります。病のある人やあるいは病気がないにもかかわらずどこか体調の優れない方々への適用はもちろんのこと、現在健康であるがさらに健康的に生活したい方々にも提案することができます。医療に携わる皆さんは、まずは自分自身が心身共に健康であることが求められます。本シリーズでは、まずは、自分自身の身体を調整する方法を知ること、そして、健康問題に様々な反応を示す人々の苦痛や不安、心配事が最小限になるためのケアの一部を紹介します。これらのケアによる実証や臨床結果も併せてお伝えします。 | 東洋医学、漢方薬、全体性、治癒力の促進、非薬物療法、爪きり<br>マッサージ<br>フットケア<br>血の道療法<br>伝統医学 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．5．6．7．8．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 1. 東洋医学と西洋医学における「病態認識」及び「治療概念」の違いを理解する。<br>2. 東洋医学における「診断法」を理解する。<br>3. 臨床における漢方薬の利用状況（主要な対象疾患と頻用方剤，副作用などの問題点など）を理解する。<br>4. 西洋医学では解決のつかない健康問題をもつ対象への非薬物療法について理解する |
| B 専門的技術<br>E 自己管理力 | 1. 臥床時の体重のかかり方を均等にするためのタオルの使い方を体験する<br>2. 爪根に平行な爪の中心のとり方を体験する<br>3. 爪の周囲のマッサージを行うことができる<br>4. 家庭用爪切り及びニッパーを用いた爪きり法を体験する<br>5. 臨床で活用できる簡単なマッサージを体験する<br>6. 一日の疲れを簡単にとる方法を体験する |
| | |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 50 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
【平名】
【四日】出席状況とレポートにより評価する　【室谷】出席状況とレポートにより評価する

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期: 【柴原】授業毎の最後に小テストを行う

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却する

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【平名】現代医療における東洋医学の役割と漢方医学的概念について | 【予習】事前配布の資料を読んでおきましょう。<br>【復習】学んだことで、自分の体調を診断してみましょう。 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②【平名】漢方薬の成り立ちと漢方医学的診察法について | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ③【平名】頻用される漢方薬漢方方剤の副作用について | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ④【四日】全体性の理解と治癒力促進のケア | 【復習】自分の体調の変化を東洋医学的に感じてみましょう。 | 【復習】60分 |
| ⑤【室谷】臥床時の体重のかかり方を均等にするタオルの置き方の体験 | 【予習 】自分の身体の冷えや歪みを体感してみましょう。<br>【復習】学んだことを日常生活の一部に取り入れていきましょう。 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑥【室谷】爪の周囲のマッサージ、爪根に平行な爪の中心のとり方、切り方の体験 | | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑦【室谷臨床で活用できる簡単なマッサージ体験 | | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑧【室谷】一日の疲れを簡単にとる方法の体験 | | 【予習】90分<br>【復習】90分 |

| 使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します | その他参考文献など:<br>【平名・四日】「絵でみる和漢診療学」JJNスペシャル 寺澤捷年 著(医学書院)<br>【室谷】「からだがスーッと楽になる全身ケア」室谷良子 著(メトロポリタンプレス)、「ピクチャーブック 爪のケア・手足のケア技術」室谷良子 監修(看護の科学社) |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
【室谷】身近なタオルや用具を使用して、簡単にできるケアの方法を提案します。ご自身のため、またご家族のため、病の人へのケアのため、是非試してみてください。
【四日】東洋医学的な体質傾向を知ることで、自身の体調を整える技を持つとともに、患者のアセスメントに応用できることを目指しましょう。

看護学科

| 科目名: リハビリテーション論 | | | 担当教員 氏名: 小川順大、森田康紀、木村智恵 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | それぞれの専門士として実務する経験から、看護への期待・連携のあり方について教授する。 | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 言語聴覚士の立場から言語療法の考え方、その実際の看護への期待、連携のあり方について説明する。作業療法士の立場から作業療法の考え方、その実際の看護への期待、連携のあり方について紹介する。<br>リハビリテーションの概念。リハビリテーション医療と理学療法士の取り組み、実務経験に基づく主要疾患のリハビリテーション制度の現状と課題。看護師に望みたいこと等を説明し理解を深めてもらう。 | リハビリテーション、<br>言語療法、作業療法、理学療法、<br>脳血管疾患・高次脳機能障害・廃用症候群 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．3．4．5．6．7．8 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | リハビリテーションの概念と医療の流れについて理解を深める。<br>言語療法、作業療法、理学療法の理論と実際について理解を深める。 |
| C 論理的思考力 | リハビリテーション医療における看護の役割について自分の考えを表現できる。 |
| F チームワーク・リーダーシップ | リハビリテーションにかかわる人々にふれ連携のあり方について考える。 |
| | |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 100 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
【木村】試験用紙に結果、コメントを記載しフィードバックとします。
【小川】試験において60%以下の者は、別途レポート提出。その他、試験後解答例を配る。
【森田】試験用紙に結果・コメントを記載し、フィードバックとします。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) | |
|---|---|---|
| | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
| ①【木村】言語聴覚療法とは、言語療法の実際(失語症・構音障害等のコミュニケーション障害について) | 【予習】言語療法について調べておく<br>【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ②【木村】言語療法の実際(嚥下障害について)、まとめ | 【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ③【森田】作業療法とはについて学ぶ、作業療法の目的と対象、作業療法の実際についてナースとのかかわり | 【予習】作業療法について調べておく<br>【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ④【森田】作業療法の実際について学ぶ、まとめ | 【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑤【小川】リハビリテーションの概念、障害の捉え方と援助活動<W.H.Oの概念>など | 【予習】看護とリハビリテーションのかかわりについて自分の考えをまとめておく<br>【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑥【小川】リハビリテーション医療のながれと理学療法の進め方<理学療法><br>※実習室で関節の動かし方等を学習する為、動きやすい服装でお願いします | 【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑦【小川】リハビリテーション医療の現状と課題、看護師に望むこと | 【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑧【小川】まとめ、意見交換 | 【復習】講義内容の復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |

| 使用テキスト:<br>必要に応じて資料を配布します。 | その他参考文献など:<br>「理学療法概論テキスト」南江堂<br>「地域リハビリテーション論」三輪書店<br>「『作業』って何だろう」医歯薬出版 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
テキストは指定しませんが、各自「リハビリテーション医療」について予備知識があれば、話を深められると思います。

看護学科

| 科目名: 看護倫理 | | | | | 担当教員 氏名: 中田智子 稲垣尚恵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 実務経験から、治療への患者・家族の意思決定場面や拘束等の実際を体験し、倫理的ジレンマを感じる場面が多くあった。倫理とは何か、看護に求められる倫理とそれに基づいた援助とはを考えながら、授業に活かした | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 看護は、対象のもつ力を最大限に引き出し、病気やそれに伴う心理・社会的な問題を対象と共に解決することである。そこには、常に課題とそれに対する対象の意思決定が必要とされる。倫理的感受性をもち、対象の意思決定の支援ができる能力を育成する。<br>キーワード<br>倫理、法、道徳の考え方倫理的判断倫理原則 | 倫理、法、道徳の考え方倫理的判断倫理原則<br>倫理的意思決定 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．3．4．5．6．7．8．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 対象のヘルスニーズを判断するために必要な基礎的知識や技術を習得できる。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個別性を支えるために正確な知識、技術の習得の必要性がわかる |
| C 論理的思考力 | 論理的課題を考察する技術を習得できる。 |
| D 問題解決力 | 科学的・分析的態度を身につけることができる。 |
| E 自己管理力 | 学習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、リーダーシップおよびメンバーシップのあり方を形成する。 |
| G 倫理観 | 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 60 % | レポート: 20 % | 発表: 10 % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:「レポート:40%」については, 提出状況や内容についてを評価する。
「その他:10%」については、授業(演習)での参加姿勢(出席状況)や取り組み姿勢を評価する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　(グループワーク)　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ･ﾚﾎﾟｰﾄ･発表･実技試験等の実施時期:課題学習、グループワークを行う。
別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。講義前に課題や試験、レポート関するオリエンテーションを行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出された課題については修正部分を指摘し返却する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①倫理学の基本的な考え方、生命倫理 | 【予習】P10～34<br>【復習】課題をレポート | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②性と生殖の生命倫理、死の生命倫理 | 【予習】P42～71<br>【復習】課題をレポート | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ③先端医療と制度をめぐる生命倫理 | 【予習】P74～90<br>【復習】課題をレポート | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ④看護倫理とは何か、専門職の倫理 | 【予習】P96～136<br>【復習】各自の事例の抽出、文献検索 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑤倫理的問題へのアプローチ、看護研究の倫理、事例分析 | 【予習】P138～213<br>【復習】事例の整理 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑥各自実習における倫理的葛藤場面の描写。個人の分析内容をもとに分析を多角的に行う | 【予習】文献検索<br>【復習】事例の整理 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑦グループで各自の分析内容をもとにまとめ、発表のパワーポイント作成 | 【予習】PPの発表準備<br>【復習】PPの発表準備 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑧発表 | 【予習】PPの発表準備<br>【復習】学びのレポート | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑨ | | |
| ⑩ | | |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | |
| ⑬ | | |
| ⑭ | | |
| ⑮ | | |

使用テキスト: 1 看護倫理 医学書院 ISBN978-4-260-03445-6

その他参考文献など:
1.看護倫理 学研 石井トク他
2.看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方 医学書院 吉武久美子
3.身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規
宮脇美保子その他参考文献

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 医療におけるパターナリズムに潜む倫理的課題が看護現場には多く存在する。常に看護者として倫理的視点にたち、対象のもつ権利擁護できる力が必要とされている。倫理的感受性を育てながら、対象の意思決定支援が行える看護
者として学んでほしい。

看護学科

| 科目名: 看護管理論 | | | 担当教員 氏名: | 山元恵子・米山美智代・高橋絹代・泉朱子・炭谷英信 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護管理者・医療安全管理者・看護職能団体の代表としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。 | | | | |

| 授業科目の学修教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| ①看護管理の基本を学び、質の高い看護を提供するためにび看護組織が担う役割を理解する。<br>②看護現場で行う医療安全行動を理解し、看護管理の視点から危機管理を学ぶ。<br>③リーダーシップを身につけ領域別実習においてチーム組織に貢献できる。 | 看護管理、看護組織、安全管理、<br>組織論、看護サービス、リーダーシップ<br>BLS国際資格取得 |

授業における学修の到達目標

| 学修教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) | 1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. |
|---|---|---|
| A 知識・理解力 | 看護管理、医療安全、危機管理、マネージメントについて理解を深める | |
| C 論理的思考力 | 看護サービスを提供するために計画的、継続的に活動する仕組みを考える | |
| D 問題解決力 | 臨床実習を展開するにあたり、チームの課題とその解決に向けて活動する | |
| F チームワーク・リーダーシップ | リーダーシップ・メンバーシップの役割を理解し、行動する | |
| G 倫理観 | 人として、、あらゆる場面において倫理的配慮を優先した行動をする | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: % | 発表: 20 % | 実技試験: (BLS取得) 20 % | その他 出席: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
授業はこれまでの学習の総まとめとしての評価判定とする。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学修 ディスカッション ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:
課題学習、グループワークを行う。テスト、レポート、発表、実技試験の実施時期:別に定めた日時に、本科目における学習内容の確認とまとめを実施する。適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。5回小テストを実施する。(講義前に)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
毎回の授業でのワークシートを作成し、授業の理解度として判定する。修正し再提出されたものを評価対象とする。

| 授業計画 | 準備学修(予習・復習等) 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【山元】看護管理の基本とマネジメント | 【予習】事前の課題を提出する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ②【山元】看護提供システムとマネジメント | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ③【山元】看護管理と医療安全行動の徹底 | 【予習】指定したテキストを熟読<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ④【山元】医療安全管理と危機管理-1 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑤【山元】医療安全管理と危機管理-2 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑥【米山】看護管理の実際と経営 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑦【山元】領域別実習に向けての組織図の完成と役割分担 グループワーク | 【予習】領域別実習に向けての準備<br>【成果】チーム力を発揮し、スムーズに領域実習に望むことができる。 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑧【山元】領域別実習の準備 =チーム力強化と機能= プレゼンテーション | | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑨【山元】全体のまとめ・評価試験 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | |
| ⑩【高橋・泉・炭谷】 危機管理-3 迅速な救急システムとの連携 AHA- BLSの講義 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | |
| ⑪【高橋・泉・炭谷】 危機管理-4 迅速な救急システムとの連携 AHA- BLSの演習 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | |
| ⑫【高橋・泉・炭谷】 危機管理-5 迅速な救急システムとの連携 AHA- BLSの評価 | 【予習】テキストを熟読する<br>【復習】テキストと授業資料復習 | |
| | | |
| | | |

使用テキスト:
・系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践 医学書院 ISBN 978-4-260-03182-0
・写真でわかる看護現場で行う医療安全行動アドバンス インターメディカ出版 ISBN 978-4-89996-455-1

その他参考文献など:
・カモメになったペンギン
ジョン・P・コッター 藤原和博訳 ダイヤモンド社
・P&G式伝える技術徹底する力
高田誠 朝日新書

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
この単元では、看護管理を広くとらえて、医療安全管理、マネジメント力について学び、臨地実習でリーダーシップが発揮できることを目指します。
実技試験に合格することで、BLS(心肺蘇生初級コース)のライセンスが取得できます。

看護学科

| 科目名: 地域・在宅看護技術論 | | | | | 担当教員 氏名: 炭谷英信 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |

| | |
|---|---|
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 病院・訪問看護事業所等での実務経験を敷かして、地域・在宅にで生活している方がに対する必要な知識・技術を教授する。 |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 地域・在宅看護は様々な健康状態がその人が希望する住みやすいところで暮らしていくことを目的としてる。その人ごとに必要な援助技術・医療処置があり、そのために様々な知識が必要になってくる。その支援方法を実施できるための基盤をつくる。 | 在宅療養者、家族、生活援助 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．5．6．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 在宅療養者と家族のQOL向上を目指した生活支援方法について理解する。 |
| B 専門的技術 | 地域・在宅看護活動基盤形成に必要な技術が習得できる。 |
| D 問題解決力 | 情報や知識を持って課題抽出・解決ができる。 |
| G 倫理観 | 在宅療養を支援していくうえで必要な倫理観を知る。 |
| H コミュニケーション力 | コミュニケーションを取ることにより相手のことを考える姿勢を身につける。 |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 80 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
テストは授業中の点数を総合して評価する。
その他は受講態度で評価する。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習)　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:
講義最初に毎回行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
講義ごとに毎回解説を行っていく。

| 授業計画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①在宅療養生活を支える基本技術−コミュニケーション、在宅におけるアセスメント技術− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ②在宅療養生活を支える基本技術−環境整備、生活リハビリテーション、感染予防− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ③日常生活を支える看護技術−食生活、排泄、清潔− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ④日常生活を支える看護技術−肢位の保持と移動、呼吸、睡眠− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑤症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア)<br>−医療ケアの原理原則、発熱症状、消化器症状、薬物療法、外来がん治療− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑥症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア)<br>−排痰ケア、気管カニューレ管理、在宅酸素療法(HOT)、在宅人工呼吸療法(HMV)− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑦症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア)<br>−排尿ケア、ストーマ管理、在宅経管栄養法(HEN)、輸液管理、 | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑧症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術(医療ケア)<br>−褥瘡管理、足病変のケア、インスリン自己注射、在宅CAPD管理、疼痛管理− | 【予習】テキストや参考文献で確認<br>【復習】ポイントをまとめる | 【予習】120分<br>【復習】120分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献など: |
|---|---|
| 1. ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論① メディカ出版 ISBN978-4-8404-7543-3<br>2. ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② メディカ出版 ISBN978-4-8404-7544-4 | ・看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術第4版<br>メヂカルフレンド社 ISBN 978-4-8392-1679-5<br>・家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版<br>日本看護協会出版会 ISBN 978-4-8180-2538-7 |

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
予習・復習を前提として講義を進めていきます。受け身ではなく積極的に望んでください。

看護学科

| 科目名: 地域・在宅看護過程 | | | | | 担当教員 氏名: 今川孝枝 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |

| | |
|---|---|
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 病院や施設、地域包括支援センターでの経験を活かして、地域と在宅で暮らす人々の生活の場での看護過程について教授する |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 地域・在宅看護論は、地域に住むあらゆる健康レベルの人々が、その人らしく住みなれた地域で暮らし続けることを支援することを目的とする。ここでは健康の保持増進・疾病の予防、QOL向上を目指した看護について学び、地域で暮らす人々とその家族のQOL向上を目指した看護を実施するための基礎をつくる | 予防 地域包括ケア<br>QOL アセスメント |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2．5．6．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 地域で暮らす人々とその家族の健康の保持増進・疾病の予防、QOL向上を目指した支援方法を理解できる |
| C 論理的思考力 | 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、在宅療養者とその家族のアセスメントを行い、課題を抽出し課題解決に向けた看護過程が展開できる |
| D 問題解決力 | |
| F チームワーク・リーダーシップ | グループワークを通し各自の役割を理解し、チームに参画することができる |
| H コミュニケーション力 | コミュニケーションをすることにより、他者に共感し相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 20 % | レポート: 50 % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:本科目はアクティブラーニングの一環として、グループワーク、討論により理解を深めることを狙いとしています。試験実施日は別に定めて実施します。その他10%:は、授業の取り組み姿勢を評価します。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

~~テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期~~:適宜課題の提出と発表を課します

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:課題の返却、発表について講評します

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①地域・在宅での看護過程の考え方と展開方法 | 【予習】テキスト<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②在宅療養者の症状・状態別看護 (事例の疾患理解と情報整理、アセスメント) | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題の遂行 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ③在宅療養者の症状・状態別看護 (アセスメント、関連図) | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題の遂行 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ④在宅療養者の症状・状態別看護 (アセスメント、関連図、看護課題抽出) | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題の遂行 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑤在宅療養者の症状・状態別看護 (関連図、看護課題抽出) 中間発表 | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題の遂行 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑥在宅療養者の症状・状態別看護 (看護計画作成) | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題の遂行 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑦在宅療養者の症状・状態別看護 (発表準備) | 【予習】事例について学習<br>【復習】発表準備 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑧在宅療養者の症状・状態別看護 (発表、まとめ) | 【予習】発表準備<br>【復習】発表と看護過程について振り返り | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑨在宅療養者の症状・状態別看護 (発表、まとめ) | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 使用テキスト: ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② メディカ出版<br>ISBN978-4-8404-7544-0 | その他参考文献など:<br>関連図で理解する在宅看護過程、メヂカルフレンド社、正野逸子・本田彰子 978-4-8392-1629-0 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は既習の学習内容を踏まえた内容がたくさんあります。整理して学習しておきましょう。

看護学科

| 科目名: 精神看護学援助論Ⅱ | | | | 担当教員 氏名: | 横道 博子 長谷川 雅美<br>坂東 紀代美 安達 寛人 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |

| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 精神病院や精神看護学教育での経験活かし、地域での生活を視座した精神障がい者への支援について演習する |
|---|---|

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 精神障がい者、生活障がいを理解し適切な援助方法を学修する。当事者とその家族の不安や健康問題を解決するための看護を看護計画として立案、実践できる基本的能力を学修する。精神科病院の変化に対応し、家族や地域支援システムなど社会資源の活用方法について学修する。 | 精神科疾患と精神症状 治療的かかわり 精神科リハビリテーション 地域支援システム 看護計画立案 プロセスレコード |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．5．6．8．9．10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 精神障がい者の生きづらさについて、精神症状や精神運動性興奮などの知識を活用できる。精神医療の変遷から精神障がい者への偏見を学修し適切な援助を考える。 |
| B 専門的技術 | 精神科疾患からの影響や各人に適した社会資源、社会復帰について学修し、知識を活用できる。 |
| C 論理的思考力 | 精神の障がいが、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別の看護計画に反映させることができる。 |
| D 問題解決力 | 当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリを理解し、関係する人や社会資源の活用を考えることができる。 |
| G 倫理観 | 精神科疾患や精神科病院への偏見を理解し、当事者への人権的配慮ができる。疾患からの行動を理解して対応できる。 |
| H コミュニケーション力 | 精神科疾患の急性期や慢性時の特徴に対して信頼関係の構築や不安の除去にむけて工夫する大切さが理解できる。 |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: 20 % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:出席状況、授業態度、定期試験の結果などを総合的に評価する。アクティブラーニングの一環としてDVD鑑賞後グループ討議と発表を行う。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:次回講義までレポー記入し提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:提出レポートにコメントを記載し返却

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【安達】入院環境と治療的アプローチ | 【予習】精神科疾患と症状について熟読<br>【復習】グループワーク準備 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ②【安達】精神科疾患の理解、精神看護における援助技術の理解(疾患、症状、治療、薬物療法、ケア) | 【予習】グループワーク準備<br>【復習】発表準備 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ③【安達】精神科疾患の理解、精神看護における援助技術の理解 グループワーク | 【予習】発表準備<br>【復習】発表内容修正後提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ④アウトリーチ(訪問看護)、ACT、家族看護精神科疾患の理解、 | 【予習】記録内容の予習をする<br>【復習】事例を基に記録する | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑤精神科救急システム | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑥精神看護における援助技術の理解 グループワーク | 【予習】資料熟読<br>【復習】演習ついてレポート提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑦精神科疾患の理解、精神看護における援助技術の理解 グループワーク発表 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑧精神科疾患の理解、精神看護における援助技術の理解 グループワーク発表 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑨オレム・アンダーウッドの理論の理解 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑩オレム・アンダーウッドを用いた事例検討、アセスメント、看護計画立案 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑪オレム・アンダーウッドを用いた事例検討、アセスメント、看護計画立案 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑫実習記録演習リラクゼーション演習 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑬リラクゼーション演習 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑭【長谷川】プロセスレコードと再構成の理解 | 【予習】テキスト熟読<br>【復習】授業内容、資料熟読 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑮【長谷川】プロセスレコードと再構成の理解 | 【予習】前回授業内容熟読<br>【復習】レポート提出 | 【予習】120分【復習】120分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献 |
|---|---|
| ・精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本 (ナーシンググラフィカ)ISBN978-8404-7541-9 C3347<br>・精神看護学(2):精神障害と看護の実践 (ナーシンググラフィカ)ISBN978-4-8404-7542-6 C3347<br>・自己理解・対象理解を深める プロセスレコード 第3版(日総研)ISBN978-4-7760-1913-8 C3047 | 看護のための精神医学 第2版 中井久夫 医学書院 ISBN978-4-260-33325-2C3047 |

看護学科

| 科目名: 成人看護学援助論Ⅱ | | | | 担当教員 氏名: 中田智子、大橋達子 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2年次 後期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 手術を受ける患者の術前・術中術後の看護を理解し、「看護過程」を用いてアセスメント・看護診断・看護計画立案を行い、必要な観察及び援助技術の習得をめざす。 | 手術侵襲・生体反応<br>術前・術中・術後の看護<br>術後合併症<br>看護過程 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 6. 7. 8. 9. |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる |
| C 論理的思考力 | さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探求する |
| E 自己管理力 | 自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない |
| F チームワーク・リーダーシップ | グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たし、お互いを資源とし、助け合う |
| G 倫理観 | 他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 30 % | レポート: 40 % | 発表: % | 演習 20 % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:授業開始時に課題提出の予定を説明する。筆記試験は最終に実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:演習に向けて事前課題を提示し、演習後提出を課す。授業の中で適宜解説をする。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【中田】周術期の看護過程の展開:看護診断と共同問題の理解 | 【予習】テキスト1の第2部7章、テキスト2を読む<br>【復習】講義資料をもとに復習する | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②【中田】手術前の患者の看護 | 【予習】テキスト1の第2部 4-5章を読む<br>【復習】テキストと講義資料をもとに復習する | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ③【中田】手術中の患者の看護 | | |
| ④【中田】手術後の患者の看護 | 【予習】テキスト1の第2部7章を読む<br>【復習】テキストと講義資料をもとに復習する | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑤【中田】手術後回復期の患者の看護 | | |
| ⑥【中田・大橋】演習:手術前患者の看護(術前オリエンテーション) | 【予習】演習課題の実施<br>【復習】演習後の課題提出 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑦【大橋・中田】演習:手術前患者の看護(術前訓練) | | |
| ⑧【中田・大橋】グループワーク:看護過程の展開(1)情報の整理とアセスメント | 【予習】演習課題の実施<br>【復習】演習後の課題提出 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑨【中田・大橋】グループワーク:看護過程の展開(2)関連図 | | |
| ⑩【中田・大橋】グループワーク:看護過程の展開(3)看護診断 | 【予習】関連したテキストを読む。(テキスト1,2)事例の疾患と看護について調べ、課題に取り組む<br>【復習】テキストと講義資料をもとに復習する | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑪【中田・大橋】グループワーク:看護過程の展開(4)看護計画立案 | | |
| ⑫【大橋・中田】演習:手術後患者の看護(手術時手洗い・挿管介助) | 【予習】関連したテキストを読む。(テキスト1,2)事例の疾患と看護について調べ、課題に取り組む<br>【復習】テキストと講義資料をもとに復習する | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑬【大橋・中田】演習:手術後患者の看護(ガウンテクニック・創処置) | | |
| ⑭【中田・大橋】演習:手術後患者の看護(術後患者受け入れ準備・術直後の観察) | 【予習】演習課題の実施<br>【復習】演習後の課題提出 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑮【中田・大橋】演習:手術後患者の看護(術後の清拭と更衣・初回離床) | | |

| 使用テキスト:1. 成人看護学④周術期看護、ISBN978-4-8404-7539-6 メディカ出版.<br>2. 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得、ISBN978-4-8404-7538-9メディカ出版、,3. 看護診断ハンドブック第12 版, ISBN978-4-260-05021-0 医学書院 | その他参考文献など: 竹内登美子:周手術期看護1～5(医歯薬出版株式会社)<br>本庄恵子監修:写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ) |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):課題は期日を守って提出する。演習においてグループメンバーと協力して行う。

看護学科

| 科目名: 成人看護学援助論Ⅳ | | | | | 担当教員 氏名: 小倉 之子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 情報収集、アセスメント、関連図、看護計画、指導計画 において実際の記載事例をそれぞれに挙げ、学生が誤りやすい箇所や捉えておきたい情報などについて説明し個別性のある看護過程の展開をめざす | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 成人看護実習Ⅱに向けて、事例による看護過程の展開の実際を習得する。1年生で習得した看護診断を用いて慢性病をもつ人への疾病理解、アセスメントを明確に行い、個別性のある看護目標と計画立案、およびセルフマネージメント支援を習得する。また事例展開を通して慢性病をもつ人の継続看護を見据えた生活の質の向上に繋がる看護支援の習得を目指す。 | 慢性期看護、看護過程、継続看護 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 2．4．6．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 1年次に習得した看護過程の展開や，病態生理を再確認しながら理解することができる |
| B 専門的技術 | 状況や関係を把握して，疾患看護の技術を習得することができる |
| C 論理的思考力 | さまざまな情報や知識を得て，大局的・論理的に分析することができる |
| D 問題解決力 | 看護過程を実際に行うことで，解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え，次の支援に繋げていくことができる |
| F チームワーク・リーダーシップ | 看護過程を実際に行うことで，解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え，次の支援に繋げていくことができる |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: 40 % | 発表: 40 % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
「その他10%」については，授業態度・グループワークでの取り組み姿勢を評価する。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:最後に筆記試験による学習内容の確認を実施する。
適宜、レポートによる課題を提示する。テーマや提出日は講義内に伝える。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 事例の記録について項目ごとにコメントし、記録を返却する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①慢性期看護と客観的な記録方法 | 【予習】慢性期疾患看護テキストの1章を熟読 【復習】①の復習 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ②看護過程の展開:事例紹介、記録用紙の使用法、情報収集 | 【予習】成人看護実習Ⅱの記録様式を確認する 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ③看護過程の展開(1) 疾患・検査・治療について調べる | 【予習】慢性期疾患に関する参考文献を準備する 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ④看護過程の展開(2) アセスメント(情報収集と分析) | 【予習】アセスメントを理解する 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑤看護過程の展開(4) 関連図作成 | 【予習】関連図の内容を理解する 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑥看護過程の展開(5) 中間発表資料作成準備 | 【予習】事例に基づき中間発表準備 【復習】 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑦看護過程の展開(5) 中間発表会(情報収集から問題点抽出) | 【予習】発表準備 【復習】不足部分追加 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑧看護過程の展開(6) 中間発表会(情報収集から問題点抽出) | 【予習】発表準備 【復習】不足部分追加 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑨看護過程の展開(7) 中間発表で得た助言をもとに修正 | 【予習】診断ガイドブック参考に理解 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑩看護過程の展開(7) 診断リスト作成 | 【予習】看護計画の目標の理解 【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑪看護過程の展開(8) 目標・計画立案 | 【予習】 EPの具体的方法の理解【復習】作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑫看護過程の展開(9) 指導案作成 | 【予習】 【復習】指導案作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑬看護過程の展開(9) 指導リーフレット作成 | 【予習】 【復習】指導リーフレット作成 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑭看護過程の展開(10) 最終発表会 | 【予習】発表会準備 【復習】 | 【予習】120分 【復習】120分 |
| ⑮看護過程の展開 最終発表会 | 【予習】発表会準備 【復習】 | 【予習】120分 【復習】120分 |

| 使用テキスト:1．鈴木久美編,成人看護学慢性期看護病気とともに生活する人を支える改訂第3版,南江堂ISBN978-4-524-24198-9 2．リンダJ.カルベニート著,黒江ゆり子監訳,看護診断ハンドブック(第11版),医学書院 ISBN978-4-260-03451-7C3047 | その他参考文献など: 1．渡邊トシ子編集,ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント(第3版) |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
看護過程の展開方法について1年次に習得した看護過程授業の資料などを見直しながらグループワークに臨みましょう。

看護学科

| 科目名: 小児看護学援助論 Ⅱ | | | | | 担当教員 氏名: 山元 恵子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |

| | |
|---|---|
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師としての実務・管理経験を生かして対象の理解・看護援助の具体的な方法について講義・演習を展開する |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 既習学習の内容を踏まえ、子どもの発達段階と病期の視点から看護支援を理解する。<br>病気や障害等の健康問題をもつ児の病気の理解から看護過程までの展開を理解する。<br>「子どもの最善の利益」を考慮した事例展開から小児の状況設定問題を解く。 | 病気・障がい・症状・健康問題・看護過程・「子どもの最善の利益」・看護支援 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 5. 6. 7. 8. |
|---|---|
| A 知識・理解力 | ①発達段階・病期に合わせた疾患の基礎知識・治療を理解することができる |
| B 専門的技術 | ②疾病や障害をもった小児を取り巻く環境を考え看護過程の展開ができる |
| C 論理的思考力 | ③健康問題に配慮した小児の成長発達への支援のあり方の、関連図が作成できる |
| D 問題解決力 | ④健康障害をもつ子どもと家族について理解を深め、看護過程の展開を述べることができる |
| G 倫理観 | ⑤「子どもの最善の利益」を考慮し、子どもとその家族を尊重をした対応を考えることができる |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 80 % | レポート: 10 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各単元終了後に定めた日時に実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【 山元 】 小児の看護過程: こどもの成長・発達と根拠に基づてた疾患・病期の看護過程の展開 | 【予習】テキストの該当疾項目の全容をグループで書き出し、説明できるように準備しておく<br>【復習】配布資料のテキストの内容を確認し、関連する状況設定問題を根拠を理解し解き明かす | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②【 山元 】呼吸器疾患: 気管支喘息・細気管支炎・肺炎の疾患の基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ③【 山元 】循環器疾患: ファロー四徴症・川崎病の基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 状況設定問題 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ④【 山元 】消化器疾患: 乳幼児嘔吐下痢症の基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 | 領域別実習の準備、<br>小児看護実習での対象の「脳性麻痺の基本的な症状や看護」について自己学習する | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑤【 山元 】内分泌代謝・腎疾患: 糖尿病・ネフローゼの基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑥【山元】 血液・運動疾患 白血病・上腕顆上骨折の基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑦【山元】脳神経疾患: 脳性麻痺の基礎知識・アセスメント・関連図・看護計画 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑧【山元 】小児看護学 国試 一般状況設定問題と解説 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |

使用テキスト:
・病期・発達段階の視点でみる小児看護過程
照林社 ISBN978-4-7965-2547-3

・新訂第2版 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-451-3 前期に購入済

・その小児科学 改訂7版 中外医学社 ISBN978-4-498-17510-5 前期に購入済み

その他参考文献など:
・系統看護学講座 小児看護学① 医学書院 ISBN 978-4-260-05686-1 ※1年次購入済
・ナーシンング・グラフィカ 人体の構造と機能①「解剖生理学」 ISBN978-8404-7831-1※1年次購入済

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
・小児看護学実習で体験することのできない疾患を中心に事例展開から看護過程・支援まで学習することで
国試の状況設定問題まで一連の流れを理解し深めていくトレーニングする場とします。
・前提条件として、看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識・態度の習得を目指します。
・領域別実習の準備として、小児看護実習での対象の「脳性麻痺の基本的な看護」を習得してください。

看護学科

| 科目名: 母性看護学援助論Ⅱ | | | | | 担当教員 氏名: 稲垣 尚恵、山本 朋子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 助産師としての経験を活かし、妊婦・産婦・褥婦、新生児およびその家族の看護における実際の体験を交えながら指導する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| マタニティサイクルにある母子と家族に対する個別的看護実践を考えるために必要な知識と技術を習得する。妊婦・産婦・褥婦および新生児が正常に経過するための援助およびセルフケア能力を高めるための看護援助方法について、基本的な看護過程の展開を通して学ぶ。 | 看護過程の展開 ウエルネス思考<br>セルフケア 母乳育児支援<br>母性看護技術 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 5. 6. 7. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識をもとに技術を学ぶ。 |
| B 専門的技術 | 妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。 |
| C 論理的思考力 | 対象の状態をアセスメントし看護援助を計画実施できる能力を習得する。 |
| D 問題解決力 | 正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。 |
| G 倫理観 | 女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。 |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:事例の看護過程の展開はグループ課題とし、発表し共有する。技術の学習にナーシングスキルを活用します。演習はグループに分かれて行う。評価には授業態度を含む。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) プレゼンテーション (実習、フィールドワーク)

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:課題は授業で指示する。技術の習得状況に応じて授業内容を変更する場合がある。科目最終試験は8回終了後に実施するので日程を確認すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:看護過程の展開については発表時に助言する。テストは必要に応じて解説する。レポートは返却時にコメントを提示する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【稲垣】ガイダンス マタニティサイクルにある対象に必要な看護技術について | 【予習】【復習】ガイダンスで提示 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ②【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ③【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ④【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑤【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑥【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑦【稲垣】看護過程の展開 [事例演習] | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑧【稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 産婦の援助技術 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑨【稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 産婦の援助技術 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑩【稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 母子と家族の看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑪【稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 母子と家族の看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑫【山本・稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 妊婦と褥婦の援助技術 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑬【山本・稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 妊婦と褥婦の援助技術 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑭【山本・稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 新生児の援助と授乳支援 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑮【山本・稲垣】母性看護に必要な援助技術 [技術演習] 新生児の援助と授乳支援 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献など:太田操:ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社、井上 裕美他:「病気がみえるvol10 産科」メディックメディア、 |
|---|---|
| ①森恵美 系統看護学講座;専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2] 医学書院 ISBN978-4-260-04223－9 ②森恵美 系統看護学講座;専門分野 母性看護学各論 母性看護学[2]医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 ③母子健康手帳<br>※①②③とも 1年次に購入済<br>④平澤美恵子 新訂版写真でわかる母性看護技術 アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0 ※前期に購入済<br>⑤村本淳子 直前母性看護実習ブレブック 看護過程の思考プロセス(医歯薬出版)ISBN978-4-263-23727-4 | |

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):母性看護学援助論Ⅰで習得した知識を踏まえた授業になります。しっかりと復習をして臨みましょう。グループワークが中心となるので意欲的に学習に臨みましょう。ナーシングスキルを活用して予習復習をしましょう。

看護学科

| 科目名: 成人看護学実習Ⅰ | | | | | 担当教員 氏名: 中田 智子、大橋達子、泉朱子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 3 | 2～3年次 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 手術を受ける患者の術前・術中・術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズに応じた看護過程を展開し、手術を受ける患者の回復支援のための看護師の役割を理解することができる。<br>手術中患者の看護の要点を知ることができる。クリティカルな状況にある患者の特徴と看護を知ることができる。 | 生体侵襲<br>生体反応<br>臨床判断<br>共同問題<br>社会復帰 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標 5. 6. 7. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | これまで学んだ知識と見学・体験した看護を統合することができる。 |
| B 専門的技術 | 患者の安全を確保して、その人に応じた方法で援助を提供することができる。 |
| D 問題解決力 | 受け持ち患者の看護過程の展開を実践することができる。 |
| F チームワーク・リーダーシップ | グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たすことができる。互いの情報を共有して助け合うことができる。 |
| G 倫理観 | 自らを律して、人・社会人として看護師を志す者として、自己を見つめ新たなる自己成長を目指すことができる。 |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:出席状況、実習中の積極性を重視する。課題レポート、実習記録の提出その内容から総合的に判断する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:習前課題にコメントして返却し、不備のある学生は再提出を課す。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な |
|---|---|---|
| ＊実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載 | 予習:疾患と看護について、整理したノートの提出 | |
| | 復習:実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出 | |
| | 事前の演習(1):4事例を提示し、学生同士で演習 | |
| | 事前の演習(2):手術室の手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、洗髪、足浴、清拭の演習 | |

| 使用テキスト:1. 成人看護学④周術期看護、ISBN978-4-8404-7539-6 メディカ出版.<br>2. 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得、ISBN978-4-8404-7538-9メディカ出版、,3. 看護診断ハンドブック第12 版, ISBN978-4-260-05021-0 医学書院 | その他参考文献など: 竹内登美子:周手術期看護1～5(医歯薬出版株式会社)<br>本庄恵子監修:写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ) |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本実習の目的を理解し、目標の到達に必要になる行動目標を明確化して毎日の実習に臨んでほしい。担当教員および指導者と報告・連絡・相談を密に行い、行動計画を修正しながら積極的に実習に臨んでほしい。

225看2_29成人看護学実習Ⅱ.xlsx

看護学科

| 科目名: 成人看護学実習Ⅱ | | | | | 担当教員 氏名: 小倉 之子 他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 3 | 2～3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 慢性病をもつ対象者や、回復期・終末期にある対象者を理解するとともに共感的態度の育成を目指し苦痛の緩和や自己実現への支援およびQOLの向上を目指した看護援助の実際を学ぶ。 | 慢性病・回復期・終末期看護<br>看護過程の展開と実践、<br>継続看護、QOL |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2．5．6．9． |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 机上で学んだ知識を臨地で繋げることができる |
| B 専門的技術 | 単に基礎的な技術方法ではなく、その人に応じた方法を提供することができる |
| C 論理的思考力 | 対象者の情報収集・アセスメントを論理的に整理することができる |
| D 問題解決力 | 対象者の困りごとを共有し，改善方法を看護過程思考を用いて患者とともに考えることができる |
| E 自己管理力 | 4週間の実習の中で身体的調整，精神的調整を行いながら、自己を見つめなおして新たなる自己成長を目指すことができる |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: 80 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
出席状況、実習中の態度や積極性を重視する。
レポート課題、実習記録の提出などの期限は厳守すること。
実習事前課題は、再提出も含めて実習前に提出すること。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:実習最終日に記録物を提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:毎日の実習記録について助言し、記録の修正をする。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ＊実習日程・内容などの詳細については、実習要項に記載<br>実習病院: 射水市民病院、高岡市民病院 | 【予習】事前学習:疾患と看護について、整理したノートの提出。実習期間中は、翌日の実習行動計画を立案し、実習に臨む<br>【復習】毎日の実習終了後は、実習日誌、看護過程展開などの記録の整理をする。事後学習:実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献など:1.経過別成人看護学3慢性期看護,メヂカルフレンド社.2.ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント,ヌーヴェルヒロカワ,渡邊トシ子編.3.看護診断ハンドブック第11版,医学書院.リンダJカルペニート. |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
本実習の目的を理解し，目標の到達に必要になる行動目標を明確化して毎日の実習をに臨んでほしい.
受身ではなく毎日の実習目的を自ら提示し，指導者と相談・連絡・報告し修正しながら積極的な姿勢で実習に参画されることを望む.

看護学科

| 科目名: | 高齢者看護学実習Ⅰ | | | 担当教員　氏名: | とりまとめ米山美智代　他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2～3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |

| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 |
|---|---|

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 高齢者福祉施設に入所(通所)する高齢者との関わりを通して、加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、健康および日常生活におけるニーズへの援助の実際を学ぶ。 | 高齢者の特性　健康レベル　生活支援　看護の役割り |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 2．5．6．7 |
|---|---|
| H　コミュニケーション力 | 高齢者のコミュニケーションの特徴を理解し、尊重した態度で接することができる |
| A　知識・理解力 | 加齢による変化が日常生活に及ぼす影響と本人の受け止め方を理解できる |
| C　論理的思考力 | 高齢者のQOLを低下させる要因を考え、生活支援の必要性を見出せる |
| B　専門的技術 | 高齢者の生活を支援する方法と看護が果たす役割を理解できる |
| | |

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト:　% | レポート:　% | 発表:　% | 実技試験:　% | その他：実習記録　100　% |
|---|---|---|---|---|

特記事項:患者への接し方、学習態度、記録物、課題レポートなどを総合的に評価します。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　(実習、フィールドワーク)

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:実習記録は指定された日に提出してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:

| 授　業　計　画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 2～3年次　2単位90時間 | 【予習】 | 予習120分 |
| 実習施設　富山県内の介護老人福祉施設および介護老人保健施設 | 事前課題(実習前に提示) | |
| | 実習中、適宜追加学習 | |
| | 【復習】 | 復習120分 |
| | 実習の振り返りレポート | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 使用テキスト:①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8　②鳥羽研二他:系統別看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1③高齢者のフィジカルアセスメント、角濱春美、ISBN978-4-8404-6142-9 | その他参考文献など:小田豊二他著:ワークブック「聞き書き」を始めよう(木星舎)ISBN978-4-901483-75-9C0037 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 1.本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。
2.行動目標を明確にして実習に望んでください。
3.健康および生活管理を十分に行ってください。

看護学科

| 科目名: | 高齢者看護学実習Ⅱ | | | 担当教員　氏名: | とりまとめ米山美智代　他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2～3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |

| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 |
|---|---|

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 高齢者および家族の思いを尊重しながらQOLの向上を目指し、高齢者の特徴を踏まえた看護過程を展開する。 | 健康評価<br>看護計画<br>医療・介護連携<br>権利尊重 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2．5．8．9 |
|---|---|
| A　知識・理解力 | 高齢者の身体的、精神的、社会的な健康状態を総合的に評価できる。 |
| B　専門的技術 | 個別性のある看護計画を作成し、安全にケアを実施できる。 |
| F　チームワーク・リーダーシップ | 家族や医療・介護の提供者と連携するための看護師の役割が理解できる。 |
| G　倫理観 | 高齢者の権利を尊重し、倫理的なケアを提供できる。 |
| | |

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト:　　% | レポート:　　% | 発表:　　% | 実技試験:　　% | その他：実習記録　100　% |
|---|---|---|---|---|

特記事項:患者への接し方、学習態度、記録物、課題レポートなどを総合的に評価します。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　　ディスカッション、ディベート　　グループワーク　　プレゼンテーション　　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:実習記録は指定された日に提出してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:

| 授　業　計　画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 2～3年次　2単位90時間 | 【予習】 | 予習120分 |
| 実習施設　富山県内の病院 | 事前課題(実習前に提示) | |
| | 実習中、適宜追加学習 | |
| | 【復習】 | 復習120分 |
| | 実習の振り返りレポート | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 使用テキスト:①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8　②鳥羽研二他:系統別看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1③高齢者のフィジカルアセスメント、角濱春美、ISBN978-4-8404-6142-9 | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 1.本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。
2.行動目標を明確にして実習に望んでください。
3.健康および生活管理を十分に行ってください。

看護学科

| 科目名: 小児看護学実習 | | | | | 担当教員 氏名: 山元恵子・稲垣尚恵 他 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 2 | 3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護管理者として小児専門病院での実務経験を生かして指導看護師と共に子どもの最善の利益についての支援とは何かを理解できるように指導を行う | | | | | |

| 授業科目の学修教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 子どもの成長発達や生活環境の特徴を理解し、あらゆる場面、あらゆる状況において、子どもと家族の最善の利益を考えた支援と看護が果たす役割について学ぶ。これらの学習を通して、子どもの権利と自己の倫理観を高める。 | ・子ども最善の利益<br>・成長発達<br>・アドボカシー・生活環境<br>・インフォームドアセント |

授業における学修の到達目標

| 学修教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．5．6．7．8．9．10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | ①子どもと家族の特徴に応じた「子どもの権利」と医療・福祉・教育の連携について学ぶ |
| B 専門的技術 | ②子どもの最善の利益を追求する態度と支援について学ぶ。 |
| C 論理的思考力 | ③子どもとその家族の「健康レベルや健康増進」を支えるための必要な援助を学ぶ。<br>④地域で暮らす子どもと家族に対する看護師の役割と対処を学ぶ。 |
| E 自己管理力 | ⑤実習中の自己の健康管理ができ、欠席しない。 |
| G 倫理観 | ⑥適切な報告、連絡、相談ができる。<br>⑦真摯な態度で実習に臨むことができる。 |
| H コミュニケーション力 | ⑧実習にかかわる人々と互いの意図や感情の伝達を言語を介して行うことができる |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: 60 % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項: 2単位90時間
総合的に評価する。
出席状況・ 実習記録類・ 課題レポート・ 実習中の学習態度
提出物は期限を厳守する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学修　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:
病院とこども園では、木曜日にカンファレンスを実施する。カンファレンスの中で各自の学びを発表し、グループダイナミクスを活かした学びを共有する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
毎週金曜日に学内実習で各自の学びを発表し、教員から学生にフィードバックする。

| 授 業 計 画 | 準備学修(予習・復習等) 学修内容 | 学修に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 2・3年次　2単位: 90時間 | 【予習】:事前課題<br>①小児の成長・発達<br>②小児の疾病治療・看護<br>③障がい児看護<br>④世界・日本・地域の子どもを取り巻く環境と社会問題<br>⑤子どもと家族の支援について<br>【復習】:国家試験につなげる学習(知識と体験の統合) | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| 実習施設: | | |
| ・富山県リハビリテーション病院・こども支援センター<br>独立行政法人国立病院機構富山病院　1W | | |
| ・小児科診療所 (外来・クリニック) 1Day | | |
| ・小杉西部こども園、つくりみちこども園　1W | | |

使用テキスト:
・系統看護学講座　小児看護学①　医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7
・系統看護学講座　小児看護学②　医学書院 ISBN 978-4-260-03866-9
・新訂第2版 写真でわかる小児看護技術　インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-451-3
・ナースの小児科学 改訂6班 中外医学社 ISBN 978-4-498-07579-5

その他参考文献など:
写真でわかる重症心身障害児のケア インターメディカ出版 ISBN: 978-4-89996-363-9

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
〇子どもは発達段階に応じた関わりが必要です。常に「子どもの最善の利益」を守る関わりを意識して実習を進めてください。
〇遅刻、欠席がないように事前に準備して臨んで下さい、原則として認めません。
〇各自、感染防止と健康管理に留意し実習場所に迷惑を掛けないように臨んでください。

看護学科　　2～3 年

| 科目名: | 母性看護学実習 | | | 担当教員 氏名: | 稲垣尚恵　山元　恵子 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2～3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |

| | |
|---|---|
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 臨床経験を活かし、助産師が行う看護の意図や根拠を説明しながら指導します。 |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 妊娠・分娩・産褥・新生児各期の対象および家族の特徴と形成過程を理解し、母子とその家族における看護の展開について学ぶ。さらに、女性の健康づくりと地域の連携及び母子保健の現状について学ぶ。これらの学習を通して自己の生命観、母性観、父性観をさらに発達させる。 | マタニティサイクル　女性と子ども　家族　成長発達　役割適応　健康診査　保健指導　母子保健　子育て支援　ウエルネス思考 生命観　母性観　父性観 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) | 5．6．7．8．9．10 |
|---|---|---|
| A　知識・理解力 | 母性看護の基礎的知識の理解を深める。 | |
| B　専門的技術 | 母性看護の対象に必要な援助技術を理解する。 | |
| D　問題解決力 | 受持事例の看護過程を展開し、事例の問題解決に必要なケアを考えることができる。 | |
| G　倫理観 | 母性看護の対象の倫理的問題(自己決定の支援、プライバシーの保護や個人情報の保護、対象の権利擁護など)を思考する。 | |
| H　コミュニケーション力 | 看護ケア実践に必要なコミュニケーション技術を用い、受持事例やその家族、実習施設の指導者、グループん学生、教員との円滑な関係性を図ることができる。 | |

成績評価の基準と方法:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト:　　% | 実習記録:　80　% | 発表:　10　% | 実技:　　% | その他:　10　% |
|---|---|---|---|---|

母性看護学実習評価表、最終レポートを含めた実習記録、実習態度を基に評価する。
実習記録は不備が無く、提出期限を守ること、記載内容を最終評価とする。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　　ディスカッション、ディベート　　(グループワーク)　　プレゼンテーション　　(実習、フィールドワーク)

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:実習最終日に報告会を行い、学びを共有する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録の内容、アセスメントについてその都度助言する。

| 授　業　計　画 | | | 準備学習(予習・復習等) | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
| 実習期間:<br>2年後期～3年後期の期間中2週間とその前後の学内学習およびオリエンテーション<br><br>実習方法:　　＊詳細については実習要項に記載 | | | 以下の内容について事前学習し実習に臨んでください。<br>1．母性看護学概論・援助論、母性小児疾病治療管理論の講義・演習(援助技術)内容の振り返り<br>2．妊娠・産褥・新生児期の母親と胎児・新生児の心身の変化の特徴に沿った看護について<br>3．実習記録における事前学習課題について学習を進める。 | 実習前には充分に実習要項と実習ガイドを読んで理解しておくこと。母性看護学の授業の内容の振り返り、ナーシングスキルを活用した復習をしておくこと。また、実習に有効な資料を整理して持参すること。 |
| 対象 | 実習環境 | 実習施設 | | |
| 妊娠期 | 産科外来 | 厚生連高岡病院<br>市立砺波総合病院 | | |
| 分娩期<br>産褥期<br>新生児期 | 産科病棟 | | | |
| 地域での母子保健支援 | 市町村保健センター | 射水市　小矢部<br>高岡市　氷見市 | | |
| | 助産所 | 県内の開業助産院 | | |

| 使用テキスト:<br>母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論Ⅰ,Ⅱ、<br>小児看護学援助論等で使用したテキストを活用する | その他参考文献など:適宜紹介する。母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論、小児看護学援助論等で使用した参考書、資料も活用する。 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
＊本実習の目的を理解し、目標の達成に必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組んでください。
＊実習の計画、実施についてはスタッフ及び教員に連絡・報告を密に行いながら実習に臨んでください。
＊母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論で学んだ知識と技術を統合し実践できる機会です。
＊日頃接する機会が少ない方を対象に実習を行うので、看護実践の機会を大切にし、体調管理をし積極的に実習に臨んで下さい。

看護学科

| 科目名：　精神看護学実習 | | | | 担当教員　氏名：　坂東紀代美　　横道博子 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期（年次・期） | | 科目の区分 | 授業方法 | （卒業要件）必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2～3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： | 精神科病院や総合病院での勤務経験を活かして地域での生活を視座に置いた精神障がい者への支援について指導する | | | | | |

| 授業科目の学修教育目標の概要： | キーワード |
|---|---|
| 当事者なりのウェルビーイングのための問題解決方法を当事者とともに考える援助技術を習得する。また、退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学修を深める。 | 精神障害と生活障害<br>人格の尊重<br>早期退院<br>地域生活支援<br>ストレングス |

授業における学修の到達目標

| 学修教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連） | 自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号）　1．5．6．8．9．10 |
|---|---|
| A　知識・理解力 | 精神科疾患について理解し障がい者の生きづらさを理解する。<br>患者の治癒過程を理解し、看護の役割を意識して援助の方法を考え実習の中で展開する。 |
| B　専門的技術 | |
| C　論理的思考力 | 早期退院の精神科医療を理解し患者個々に適した資源の活用を考慮して入院期間の援助考えることができる。<br>患者の情報を的確に収集・アセスメントし看護計画を立案、実施できる。 |
| D　問題解決力 | |
| E　自己管理力 | 患者の症状や拒否的反応に対して感情的ではなく症状の一部として理解し対応する。<br>実習において対象者にかかわることを意識して自分自身の心身的健康を管理する。 |
| F　チームワーク・リーダーシップ | グループ学習や患者との集団的かかわりの中で、自分の考えや意見を述べることができる。 |
| G　倫理観 | 精神科の強制入院や行動制限・処遇について、病棟での実際の運用から実感官として理解を深め、実践の中で展開する。 |
| H　コミュニケーション力 | |

成績評価の方法・基準：　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト：　　% | レポート：　50　% | 発表：　　% | 実技試験：　　% | その他：　50　% |
|---|---|---|---|---|

特記事項：
・実習への積極的取り組みを重視する。
・レポート課題、実習記録の提出状況なども参考にし実習最終日に教員と面接し、総合評価する。
・実習前課題は提出期日を厳守する。

アクティブラーニング要素：
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。

| 授　業　計　画 | 準備学修（予習・復習等） 学修内容 | 学修に必要な時間（分） |
|---|---|---|
| 精神看護学実習は2週間である。 | ・事前課題の取り組み。<br>・国試問題による学習の確認。<br>・実習場所の法的根拠を理解する。 | |
| 実習施設：精神科病院、デイケア、就労支援事業所 | | |
| 精神科病院では患者1名を受け持ち、看護計画の立案・実践を行い、精神科疾患患者の治療・看護過程を学ぶ。 | | |
| デイケア・生活支援・就労支援について見学実習する。 | | |
| 実習日程などの詳細については実習要項を参照する。 | | |
| 患者・家族・地域についての理解を深める。 | | |
| 自立・就労支援の見学実習により、精神障がい者の地域生活支援を理解する。 | | |

| 使用テキスト： | その他参考文献など： |
|---|---|
| 精神科疾患管理論、精神看護学概論、精神看護学援助論の講義で使用したテキスト、授業資料、看護のための精神医学資料 | 看護のための精神医学（中井久夫、医学書院） |

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：
実習の目的を理解し、目標到達に必要な行動目標を明確にし、取り組みましょう。
担当教員、指導者に報告、連絡、相談を行い、実習に臨みましょう。
講義で学んだ知識と実習での学びを統合して精神看護をとらえましょう。

看護学科

| 科目名: 地域・ 在宅看護学実習 | | | 担当教員 氏名: 今川孝枝　炭谷英信 他 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 2 | 3年次 | 通年 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 病院や施設、地域包括支援センターでの実務経験を活かし、学生の体験を踏まえながら教授する | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 地域に住む人びとの暮らしと健康を守るための支援について理解できる。また、地域・在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解し、療養者及び家族に応じた看護過程が展開できる。さらに、社会資源の活用について具体的に学ぶ | 地域、暮らし、予防、在宅療養、家族、社会資源 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2. 4. 5. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 地域に暮らす人びとの健康、在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解することができる |
| B 専門的技術 | 在宅療養を推進・継続するための社会資源の活用方法を習得できる |
| C 論理的思考力 | 療養者及び家族に応じた看護過程を展開することができる |
| F チームワーク・リーダーシップ | チームメンバーの一員として役割を理解し、チームに参画することができる |
| G 倫理観 | 援助にあたり、尊厳や権利を尊重する看護の方法を習得する |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: 60 % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:本科目はアクティブ・ラーニングの一環として3形態の施設で実習を行います。実習場でのカンファレンス、報告会、 学内での学びの報告やディスカッションを通して学びの共有化を図り、療養者・家族に応じた看護展開ができることを狙いとしています

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

~~ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:事前学習、実習中の学習態度、記録物・課題レポートなどを総合的に評価します。~~*提出物は期限を厳守してください

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録、提出課題に対してコメント記載および個人面談でフィードバックを行います

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 実習期間: | | |
| 令和8年6月から9月　グループごとに実施 | 【予習】事前課題に取り組む。関連する教科書やこれまでの講義や演習の復習 | |
| (オリエンテーション、事前学習、学内実習含む) | | |
| | | |
| 実習施設: | 【復習】実習で経験した事柄について関連する教科書等で復習。地域・在宅看護領域の国家試験問題の学習 | |
| 訪問看護ステーション | | |
| 共生型ディサービス など | | |
| 地域包括支援センター | | |
| | | |
| *詳細については実習要項に記載、オリエンテーションで説明します。 | | |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | |
| ⑬ | | |
| ⑭ | | |
| ⑮ | | |

| 使用テキスト: 地域・在宅看護学関連講義使用のテキスト、健康と法律、社会福祉概論等のテキスト・資料(今まで使用のもの) | その他参考文献など: |
|---|---|
| 受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加してください | |

看護学科

| 科目名: 看護研究Ⅱ(看護研究の計画) | 担当教員 氏名: 担当教員 氏名:小倉之子、岩城直子、山元恵子、高橋絹代、大橋達子、米山美智代、中田智子、横道博子、稲垣尚恵、炭谷英信、泉朱子 |
|---|---|

| 単位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 2年次 | 後期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 個々の学生がテーマをもち看護研究の基礎的知識を活かした研究計画ができる。 | 研究テーマ、文献検索、研究方法、研究デザイン、研究倫理、研究計画書作成 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 6. 7. 9. |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 看護師として成長し続ける基礎を作るために<br>・選択した文献の内容について説明できる。<br>・選択した文献の今後の看護活動への活用について述べることができる。 |
| B 専門的技術 | ・文献検索や研究計画書の作成ができる<br>・興味のあるテーマの研究動向、看護研究の意義・デザイン、研究倫理を含めた内容でまとめることができる |
| C 論理的思考力 | |
| D 問題解決力 | |
| E 自己管理力 | ・担当教員との調整を自主的に行い、課題を遂行できる<br>・事前に担当教員より内容確認・助言を受け、かつ提出期限内に提出できる |
| F チームワーク・リーダーシップ | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| 到達目標 A-D: 40 % | 提出物EF (文章構成含む) 40 % | 発表: 10 % | 実技試験: | 出席: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項: ゼミ形式で授業を進め、学生が主体的に発表会の運営を行う。
〈評価基準〉 学修到達目標達成度70%, グループワーク提出物状況20%, その他10%は学会参加からの修学状況

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期: 別途指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ゼミ形式で担当教員ごとに実施。

| 授業計画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ① 授業ガイダンス【コーディネーター教員】 | ①から⑧は学生全員を対象に実施 | |
| ② 文献検索の実際① 【担当: 】 | | |
| ③ 文献検索の実際② 【担当: 】 | | |
| ④ 研究方法:データー解析法① 検定法 【担当: 】 | | |
| ⑤ 研究方法:データー解析法① 相関・相関係数 【担当: 】 | | |
| ⑥ 看護実践から研究、看護研究から実践活用 【担当: 、 】 | | |
| ⑦ 研究計画書の作成と研究の実例紹介 【担当: 、 】 | | |
| ⑧ プレゼンテーション、パワーポイントの基本 【担当: 、 】 | 研究領域の決定 | |
| ⑨-⑪ 研究計画策定 (グループで研究テーマ決定、研究計画書作成 【ゼミ担当者】 | ゼミ毎のグループですすめる | 適宜、担当教員から指示を受ける |
| ⑫-⑭ 研究計画策定 (グループで研究テーマ決定、研究計画書作成 【ゼミ担当者】 | | |
| ⑮-⑰ 研究計画策定 (グループで研究テーマ決定、研究計画書作成 【ゼミ担当者】 | | |
| ⑱⑲ 授業時間外(看護系学会に参加し研究発表を聴講し学びをレポート報告) | | |
| ⑳-㉒ 発表会に向けた準備(役割担当の決定、設営準備)【ゼミ担当者】 | | |
| ㉓-㉖ プレゼンテーションの準備 (発表準備)、各役割での事前準備【全員】 | | |
| ㉗ー㉚ 発表会【全員】 | グループでポスター発表 | |

| 使用テキスト: 適宜、担当教員から指示を受ける | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
・興味ある事柄を追求していく楽しさを体験してください。
・積極的に図書館を活用してください。